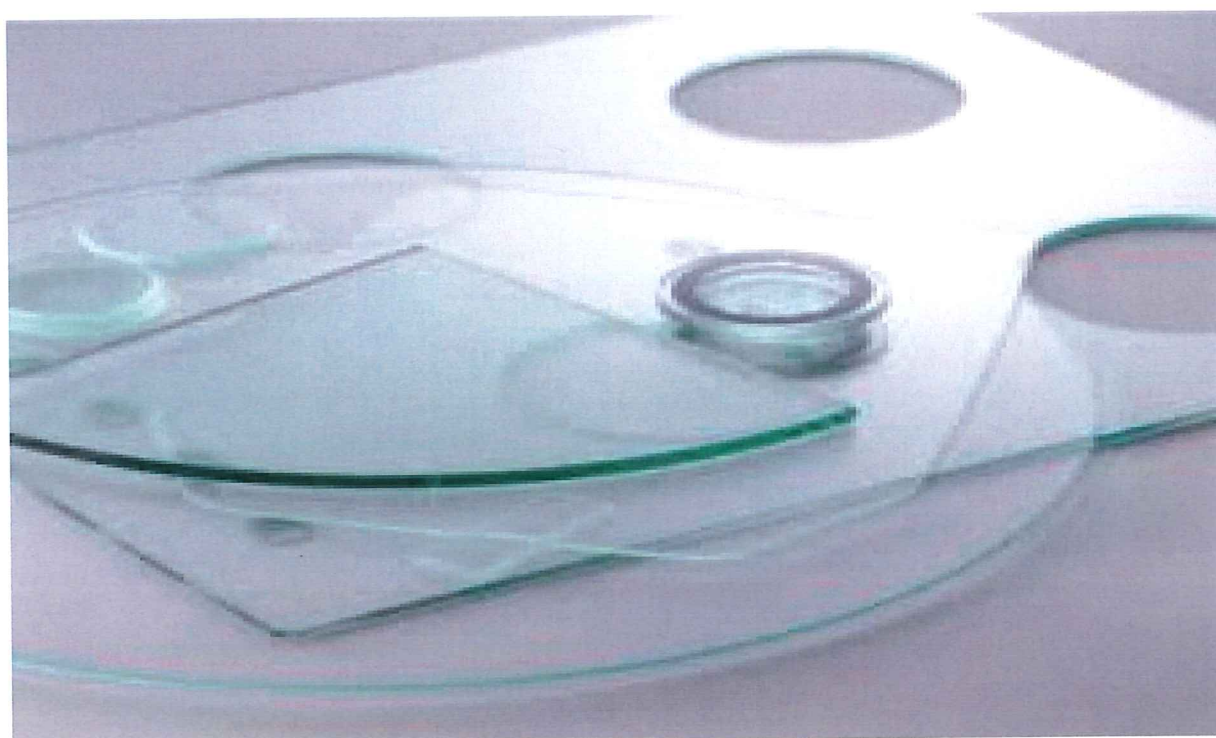


2022年度 環境レポート

エコアクション21ガイドライン2017年版に準拠

《対象活動期間 2022年4月～2023年3月》



発行日 2023年5月24日

株式会社オカザキテクノグラス

目 次

組織概要・対象範囲	P-1
環境活動組織図(職務の責任と権限)	P-2
環境経営方針	P-3
環境経営目標	P-4
環境経営目標 実績・評価《活動期間:2021年4月～2022年3月》	P-5
環境経営計画・実績・評価、次年度への取り組み	P-6-①②
環境関連法規等の遵守状況、及び違反・訴訟等の有無	P-7-①
環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P-7-②
代表者による全体評価と見直し・指示	P-8
SDGs登録による持続可能な開発目標	P-9
ボランティアへの参加(活動状況)	P-10

組織概要

【社名】	株式会社オカザキテクノグラス
【代表者】	代表取締役 中根 寿美子
【資本金】	350万円
【所在地】	本社 〒444-2134愛知県岡崎市大樹寺2丁目16番地3 主な業務：事務管理、製造、商品管理、営業
【担当者】	環境管理責任者 中根 汰笙 TEL:0564-26-5450 FAX:0564-26-5451 メールアドレス:tai.nakane@okazakitechnoglass.co.jp
【売上高】	1.80億円(2022年度)
【会社規模】	従業員数 15名(2021年度) 社屋 平屋建 264㎡ 光学用特殊ガラスの製造・販売、計量・計測器用ガラスの販売
【沿革】	2002年12月 オカザキテクノグラス設立 2004年1月 有限会社オカザキテクノグラス 2007年12月 株式会社オカザキテクノグラス 2016年6月 新工場を岡崎市大樹寺に竣工し、本社機能を新工場に移し業務センターとして、スタートした 2017年5月 中国での研摩作業を、国内生産化する為、各種生産設備を導入 商社・製造販売への業種転換をはかる

対象範囲

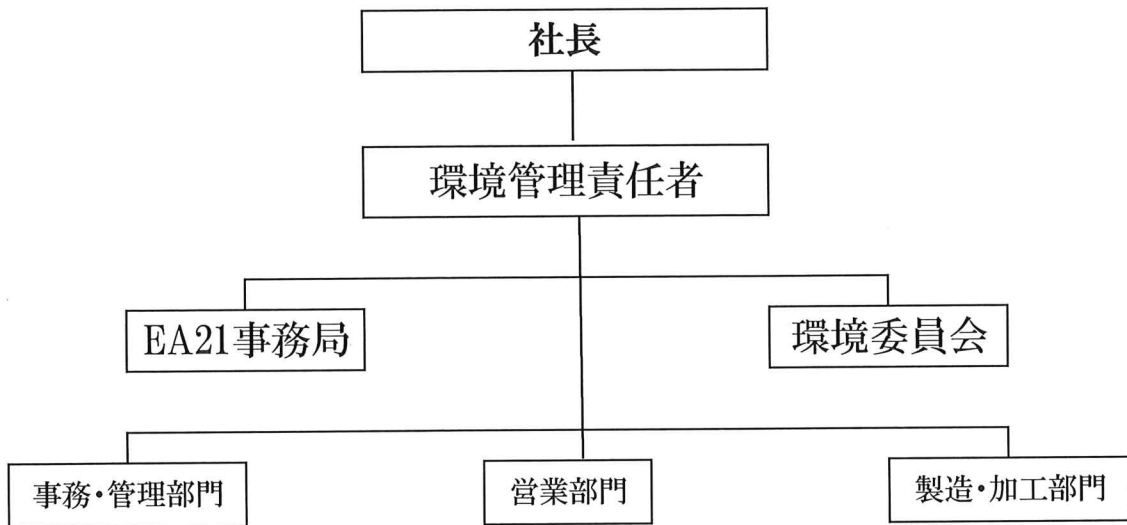
①全組織・全活動

②従業員数 社員 15名

③活動範囲

2022年4月～2023年3月までの活動を環境活動レポートにまとめました。

環境活動組織図(職務の責任と権限)



役割・責任・権限	担当
<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任者 環境経営方針を制定し、全社員への周知・徹底を図る 環境管理責任者及び、必要な責任者を任命する 定期的なシステムの見直しを行い、評価・見直し・指示を行う 環境経営に於ける課題・チャンスを確認し、環境経営方針・環境経営目標に反映させる 環境マネジメント関連の予算の調整と確保 	社長
<ul style="list-style-type: none"> 環境経営マネジメントシステムの管理 環境活動の結果を代表者へ報告 エコアクション21に関連する書類(標準書、手順書、記録類、環境活動報告書)の承認を行う 是正、予防処置の勧告 内外部の環境関連情報の受発信 	環境管理責任者
<ul style="list-style-type: none"> 環境委員会の開催により 活動内容の進捗及び推進 問題点並びに重要事案の討議・決定 	環境委員会
<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境への負荷の自己チェック表、環境への取り組みの自己チェック表の作成・評価 環境目標の作成と取組・改善のとりまとめ 環境レポートの作成 環境上の法規制、その他の要求事項の不具合・是正 教育・訓練の計画立案 	EA-21事務局
<ul style="list-style-type: none"> 自部門に於ける環境経営システムの実施 自部門に於ける環境経営方針の周知・徹底 自部門の従業員に対する、教育訓練の実施 自部門に於ける環境負荷低減の改善活動の実施 自部門の問題点の是正・予防措置の実施 	部門長
<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解とその取り組みの重要性の理解 積極的な環境活動への参加 	全従業員

環境経営方針

[企業理念]

私共の企業は、「光学用特殊ガラスの製造・販売、並びに計量・計測器用ガラスの販売」を行っている企業です。事業活動の中で環境保全と改善に積極的に取り組み、継続的にお客様、社員の生活向上を図り、地域への責任と役割を果たしてまいります。

[方針]

1. 当社が企業活動を行っていく上で、適用を受ける環境関連法規等に於ける要求事項を遵守します。
2. 環境経営目標を定め、その実現を図り、定期的な見直しを行い継続的な改善活動を行います。
3. 事業活動を通じ、省エネルギー、省資源（水）、廃棄物の削減を通じ、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
4. 事業活動を通じ、当社が購入する原材料・資材のグリーン購入を推進します。
5. 事業活動を通じ、再資源化を積極的に推進し、「ゼロエミッション」の取り組みに貢献します。
6. 環境保全活動を通じて、地域社会との連帯に努めます。
7. 環境活動について、社員教育を行い、環境保全の意識を高めます。

制定 2008年5月30日

改定 2011年1月 5日

改定 2018年4月 6日

改定 2021年2月20日

株式会社 オカザキテクノグラス
代表取締役社長 中根 寿美子

環境経営目標

項目	2020年度	2022年度	2023年度	2024年度
※目標=基準値×基準比	実績	目標値	目標値	目標値
1.エネルギー使用量	基準値	基準比97.0%	基準比96.5%	基準比96.0%
電気使用量 kWh	89,092	86,419	85,974	85,528
管理指標(A) kWh/百万円	※3 656.88	637.17	633.89	630.60
(A)×※1 kg-CO2/百万円	※1 296.91	288.00	286.52	285.03
軽油使用量 0	2,802	2,718	2,704	2,690
管理指標(A) 0/百万円	※3 20.66	20.04	19.94	19.83
(A)×※2 kg-CO2/百万円	※2 53.30	51.70	51.44	51.17
2.二酸化炭素排出合計 kg-CO2/百万円	350.21	339.71	337.96	336.20
3.一般廃棄物 kg/百万円	0.580	基準比96.5% 0.560	基準比96% 0.557	基準比95.5% 0.554
4.産業廃棄物 kg/百万円	106.48	102.75	102.22	101.69
5.水道水使用量 m ³ /百万円	11.96	基準比98.6% 11.79	基準比98.4% 11.77	基準比98.2% 11.74
6.製品サービス 弊社製品のSDS提供 環境に配慮した製品の提案		目標 2社 主な施策 材料分析管理 簡易包装提案	目標 2社 主な施策 材料分析管理 簡易包装提案	目標 2社 主な施策 材料分析管理 簡易包装提案
7.作業改善 ムリ、ムラ、ムダの改善 ガラス加工の効率化		目標 3件 主な施策 良品率向上 溶剤管理	目標 3件 主な施策 良品率向上 溶剤管理	目標 3件 主な施策 良品率向上 溶剤管理

※1・・・電力使用量による二酸化炭素排出係数は、2020年度の指数0.452kg-CO₂/kWhを使用

※2・・・軽油使用量による二酸化炭素排出係数は、2020年度の指数2.58kg-CO₂/0を使用

※3・・・2020年度売上実績135.63百万円を使用

環境経営目標・実績・評価《活動期間：2022年4月～2023年3月》

項目	2020年度		2022年度			
	実績	基準値	目標値	実績	達成率	評価
※目標=基準値×基準比			基準比97.0%			
1.エネルギー使用量					%	○△×
電気使用量 kWh	89,092		86,419	100,115	86.3	△
管理指標(A) kWh/百万円	656.88		637.17	※1 533.03	119.5	○
(A)×※1 kg-CO2/百万円	296.91		288.00	240.93	119.5	○
軽油使用量 0	2,802		2,718	3,384	80.31	×
管理指標(A) 0/百万円	20.66		20.04	※1 18.69	107.22	○
(A)×※1 kg-CO2/百万円	53.30		51.70	48.22	107.22	○
2.二酸化炭素排出合計 kg-CO2/百万円	350.21		339.71	289.15	117.48	○
二酸化炭素総排出量 kg-CO2	47,498.74		-	49,378.18	-	-
3.一般廃棄物(資源+可燃) kg/百万円	0.580		基準比96.5% 0.560	0.440	127.20	○
4.産業廃棄物 kg/百万円	106.48		102.75	84.31	121.88	○
5.水道水使用量 ml/百万円	11.96		基準比98.6% 11.79	9.61	122.71	○
6.製品のSDS発行	2社		2社	2社	100.0	○
7.作業改善	3件		3件	3件	100.0	○

評価=100%以上⇒○ 85%～99%⇒△ 85%以下×

※1・・・2022年度売上実績181.03百万円を使用

【補足】

- ・2020年度二酸化炭素算排出量は、電力消費量と軽油消費量にそれぞれ、表記係数を使用して算出しました。
- ・営業車としては、全てがディーゼル車を使用している為、軽油のみです。
- ・PRTR法に該当する化学物質の取り扱いはありません。

軽油使用量目標値未達成

【原因】

近隣県の営業活動及び納品先の増加

【次年度取り組み】

営業先、納品先の日程調整への取り組み

環境経営計画・実績・評価、次年度への取組

【1】二酸化炭素排出量を売上高あたり(原単位)3.0%削減する。

1.電力使用量を売上高あたり3.0%削減する。	担当部門	スケジュール	評価
(1)定時時間内での加工計画、残業削減化をする。	製造・加工	通年	○
(2)1階フロアに設置済み、排水処理室にも設置検討する。		通年	○
(3)温度の再見直し、照明の間引き実施する		通年	○
(4)新規導入による機器については、環境負荷を考慮したと省エネ機器の入れ替え検討。		随時	△

次年度の取組

製造部門のガラス加工用施設(一般照明・空調・動力等)使用量削減管理を強化し推進する。
 照明のLED化は100%完了しています。⇒今後は、人感センサー等の活用検討する。
 作業員への空調服を検討しエアコンの温度設定(夏26度、冬20℃度設定)を進める。
 新規導入による機器については、環境負荷を考慮したと省エネ機器の入れ替え引き続き検討。

2.軽油使用量を売上高あたり3.0%削減する。	担当部門	スケジュール	評価
(1)車両は、納品・引き取り用に使用されるので、エコ運転活動展開している。	営業	回/月	△
(2)燃料使用量管理にプラスし車輻管理を実施している、主なものにエンジンオイル・タイヤ空気圧の適正化と定期点検の実施。		回/年	○
(3)アイドリングストップ機能の徹底化		随時	○
(4)物流変化に応じた、運送の集中化及び巡回経路等も見直しムダをなくす。		随時	○
(5)輸入量の最適化見直し		回/月	○
(6)エコ運転教育の実施。(高速:80km、一般道:法定速度内、アイドリングストップの励行)		通年	○

次年度の取組

車両は、納品・引き取り用に使用されるので、引き続きエコ運転活動展開している。
 次期導入車両のハイブリット化による、省エネの実施。
 納入便(大阪便、長野便)の回数の見直し、中国からの海外便の入港予定日と大阪便とのリンク化
 製品をコック品扱いとし納品回数減少。
 適正積載量厳守
 車両整備(3ヶ月に1回)

【2】廃棄物排出量を売上高あたり3.5%削減する。

1.一般廃棄物排出量を3.5%削減する。	担当部門	スケジュール	評価
(1)廃棄物排出量の管理	事務・管理	月/回	○
(2)分別管理の徹底とリサイクルステーションによる集中管理		月/回	○
(3)郵便物(封筒の再利用)による廃棄の削減		通年	○
(3)ミスコピー及びミスプリントアウトが多いので、プリントアウト時にプレビュー等で確認。		通年	△
(4)発生量は少ないが、販売先の変化による影響があるので注意管理を行い更に分別の徹底を図る。		通年	○

次年度の取組

電子文章化にともないコピーの削減
 購入品梱包材の再利用を推進する。
 使用後の製品、容器包装等の回収リサイクルに取り組む。
 研磨機バット交換頻度見直し端材の再利用
 洗浄機フィルター交換頻度見直し

6-1環境経営計画・実績・評価、次年度への取組

2.産業廃棄物排出量を3.5%削減する。	担当部門	スケジュール	評価
(1)マニフェスト伝票の管理	製造・加工	通年	○
(2)産廃排出量の管理		通年	○
(3)分別の徹底		通年	○
(4)ガラス加工の改善による廃ガラス量の削減(加工プログラムの見直し)		随時	○
(5)廃棄用ガラスの再利用化の推進(不良品の再加工化と、端材の有効活用)		随時	○
(6)マテハンの推進(コンテナの循環)		通年	○
(7)海外物流による木パレットの仕様の見直し		随時	○
(8)ガラス加工後の廃ガラスを減らす為、加工プログラムの見直しにより、廃棄分の減少化を図る		通年	○
(9)『汚泥』について、リサイクル化検討		随時	○

次年度の取組

新規事業導入により発生する『汚泥』処理について、加工工程の改善により、発生量を減らす

LAP剤使用量減少への検討

購入品木箱の再利用を推進する。

不適合ガラス再加工分別活動

使用済み鋳物再利用への検討

【3】水使用量の削減を売上高あたり1.4%削減する。

(1)洗車時の節水化の対応(洗車回数の見直し、高圧洗浄機の使用)	営業	随時	○
(2)自動センサー栓の検討・導入	製造・加工	随時	△
(3)トイレはエコトイレを採用。自動化による節水(流水量調整の実施)	事務・管理	随時	○
(4)洗車時の節水化の実施・・・高圧洗浄機の導入したので、更に洗車の回数等にも工夫し工程内でのガラス洗浄工程を見直し、更なる節水につとめる。	営業	通年	○
	製造・加工		
(5)定時時間内での加工計画、残業削減化をする。	製造・加工	通年	○

次年度の取組

自動センサー栓の計画的検討・導入

高圧洗浄による節水

節水の呼びかけの徹底

水道料金の見える化

環境経営計画・実績・評価、次年度への取組

【4】製品の環境負荷低減提案とSDSの提供により、顧客への環境配慮を行う。

(1)モニターガラスの再研磨によるリユース化の提案	製造・加工	随時	○
(2)第三者機関での材料分析の実施。		随時	○
(3)当社製品材料の分析を行い、取引先にSDS情報を発行する。	営業	随時	○
(4)顧客の要望による、納入製品の、通い箱化(プラ・折り畳み化)の推進		随時	○
次年度の取組			
モニターガラスリユース化の提案拡大			
製品納入トレイ返却のお願い			
包装袋の脱プラへの検討			

【5】作業改善『ムリ・ムラ・ムダ』によるガラス加工作業の効率化をする。

(1)ガラス研磨加工工程の標準化・合格率UP	製造・加工	通年	○
(2)なぜなぜ運動の推進。		通年	○
(3)『ムリ・ムラ・ムダ』の改善作業の実施。		通年	○
次年度の取組			
座り作業から立作業への作業効率化			
ピッキングミスへの対応(棚保管での表示)			
ガラス再研磨品の厚み測定方法の改善			

環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟等の有無

(1) 遵守状況の確認及び、評価

当事業所が適用を受ける主な環境関連法規と遵守状況(2023年3月に確認)

法規名称	内容	遵守調査	違反等
下水道法	公共下水道の届け出	○	—
	排水水質の監視測定(業者委託)ノルマルヘキサン抽出物管理	○	—
	自治体(岡崎市)の定期監視測定	○	—
愛知県生活環境の 保全等に関する条例 による規制	アイドリングストップの周知	○	—
	駐車場の看板	○	—
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	飛散、流出、地下浸透防止	○	—
	周囲に囲い	○	—
	法的看板60cm×60cm以上の看板の設置(看板の記載)	○	—
	委託契約書の取り交わし	○	—
	委託業者のライセンス最新版の確認	○	—
	自社運搬時の「産業廃棄物運搬」表示	○	—
	廃棄物管理票の適正処理	○	—
	マニフェストの発行及び保管(A・B・D・E票管理)	○	—
	前年度交付状況を6月末までに自治体に報告	○	—
	廃蛍光灯(水銀)飛散管理	○	—
自動車NOX,PM法	窒素酸化物及び、粒子状物質の排出検査。購入時確認	○	—
	適切な委託業者への処分依頼	○	—
自動車リサイクル法 家電リサイクル法	製造メーカーへ返品	○	—
フロン排出抑制法	フロン機器廃棄処理; 専門業者への処分依頼	○	—
	専門業者に処理委託	○	—
	取引証明書の3年間保存	○	—
	簡易点検記録	○	—
毒物及び劇物取締法	化学物質の適正管理(トナーパープル)表示あり	○	—
	管理責任者の設置と入手庫管理 施錠付き保管庫	○	—
消防法 危険物	化学物質の適正管理(洗浄剤IPA)	○	—
	管理責任者の設置	○	—
薬事法 劇薬、有害物質	化学物質の適正管理(希硫酸)	○	—
	管理責任者の設置	○	—
	盗難防止のための保管庫と施錠	○	—
化審法	化学物質の適正管理(アセトン)少量該当せず	○	—
	管理責任者の設置	○	—
資源有効利用促進法	カットガラスの再利用	○	—
水質汚濁防止法	排水樹の適正管理	○	—
	汚泥処理水の適正管理該当せず	○	—
	排水処理施設事故時の届出	○	—
労安法	作業環境測定(有機溶剤)少量該当せず	○	—

毎年5月に県三河事務所窓口及び関連省庁のホームページ、法規書本等で改正状況の確認を行います。環境関連法規等の遵守状況の確認は、年1回3月に実施しており、違反はありませんでした。

(2) 外部からの指摘・苦情や違反・訴訟等の有無

指摘・苦情や違反等はありませんでした。

代表者による全体評価と見直し・指示

		項 目	評 価 内 容
全 体 評 価		環境活動への取り組みは適切に実施されているか	二酸化炭素の排出量削減、電力使用量削減、廃棄物(産廃)の削減等による、環境経営目標を達成するための取り組みは適切に実施されている 職場の、改善提案も実行されている
		環境経営システムが有効に機能しているか	システムについては、問題なく有効に機能している
見 直 し ・ 指 示	対 象	変更有無	見直しの内容・指示
	環境経営方針	有・ 無	特にありません。
	環境経営目標	有・ 無	特にありません。
	環境経営計画	有・ 無	特にありません。
	実施体制	有・ 無	特にありません。

総合的な評価と指示事項

来年度は電気料金を始めとして物流コスト・材料コスト等の値上げが目白押しです。

社員一人一人が省エネやコスト削減の意識をもって改善活動の推進に従事してください。

5Rを中心とした改善活動を実施し、お客様に対して積極的に提案活動に繋げてください。

更なる、品質改善活動を推進し省エネに繋げて欲しいです。

2023年5月21日

株式会社オカザキテクノグラス
代表取締役
中根 寿美子

SDGs登録による持続可能な開発目標

国連サミットは、15年間で達成する17の目標を掲げています。
当社はこの中から、目標6【水・衛生】・目標7【エネルギー】・目標11【廃棄物管理】
目標12【持続可能な消費と生産】・目標13【省エネによるCO2削減】・目標17【パートナーシップ】の
目標に取り組んでいきます。

～目標と具体的な施策～

環境対策

資源の再利用、再資源化を積極的に推進し、「ゼロエミッション」の取り組みに貢献していきます。



具体的な取り組み 《廃材削減・ガラス再利用・浄化槽設備による水質汚濁防止の徹底、
工場内LED設置・エコカー積極導入》

パートナーシップ

パートナー企業との連携強化により、社会全体の環境負荷軽減に貢献していきます。

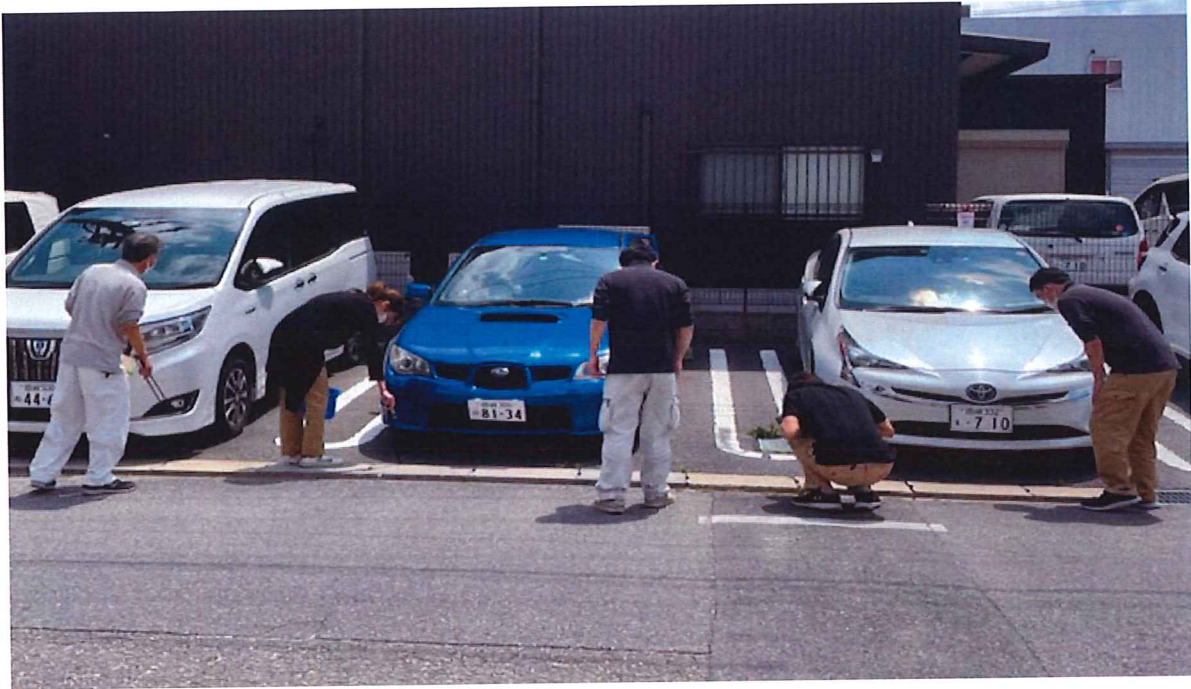


具体的な取り組み 《取引先とCMS(化学物質マネジメントシステム)を構築》

ボランティアへの参加(活動状況)

不定期な活動を定着化する為、火曜日～金曜日の当番制で清掃活動を実施しました。

今回は、火曜日(A班)の清掃活動の様子です



タバコの吸い殻やマスク等、結構毎日落ちているものです！！



清掃後、ゴミ類は選別し、当日の作業は完了しました。